



# 浦島伝説

令和6年5月17日

第6号

## やまぶきの花

春の山野でその名のとおり鮮やかな山吹色の花を咲かせるヤマブキは、北海道から九州までの低い山や丘によく生えている低木です。

美しい花は『万葉集』にも詠まれるなど、古くから日本人に愛されており、各地で花木として栽培されてきました。花弁が5枚の一重咲きのヤマブキは実（果実と種子）ができますが、八重咲きのヤマブキには実がありません。八重咲きのヤマブキは、一重咲きのヤマブキの突然変異です。平安時代には家の庭に植えられていたそうです。このことから、ヤマブキには次のようなエピソードがあります。



一重咲きのヤマブキ



八重咲きのヤマブキ



室町時代中期、江戸城を築城した太田道灌（おおたどうかん）が若い頃の話です。鷹（たか）狩りの途中、にわか雨に降られました。蓑（みの：わらでつくられた昔の雨具、レインコート）を借りようとみすぼらしい農家に立ち寄ったところ、その家の娘が出てきました。道灌が「蓑を貸してほしい」というと、ヤマブキの花をお盆の上に一輪のせて「お恥ずかしゅうございます」と差し出したそうです。意味不明でわけが分からぬ道灌は、そのまま怒って帰ってしまいました。その夜、家来にこの出来事を語ってみると、教養のある近臣の一人が進み出て言うには、昔の歌に

ななえ や え      はな      さ      やまぶき  
 「七重八重      花は咲けども      山吹の  
 み      ひと      な      かな  
 実の一つだに      無きぞ悲しき」

というのがあり、その娘は貧しくて蓑の一つもないことを奥ゆかしく歌に表したのではないかと答えました。道灌は自分の勉強不足を恥じて、それ以降、勉学に励んだそうです。



また、江戸落語には、この逸話をもとにした「道灌」というお話があり、オチ（下げ）に使われています。

勉強は単に受験やテストのためだけにするものではありません。教養を身につけることで、気の利いた受け答えや機転をはたらかせる知的で楽しい生活を送ることができます。知らなかったことを知るということは楽しいことです。道灌を見習い、テストを終えたばかりではありませんが、みなさんも勉学に励んでみませんか。

